

石狩川河口渡船場 とせんば

石狩川河口渡船場は、石狩川最下流の渡船場です。発祥の時期は明らかではありませんが、安政4年（1857）に場所請負人が渡船場を運営し、渡し賃は無料であったという記録がありますので、それ以前からあったようです。翌5年には石狩役の管轄となり、渡し賃は50文となりました。万延2年（1861）には、「渡船規則」が定められています。

明治に入り、渡船場は、道路の一部として一層重要性が高まりました。運営は当初は開拓使が行い、やがて石狩町営に移管しました。しかし、実際の運航は、個人や会社が請け負う形で行われました。

その後、渡船場の運営は、昭和28年（1953）に石狩町直営となり、同年、札幌－留萌間が国道231号線になったことから昭和30年（1955）には国営渡船場に指定されました。昭和34年（1959）には、それまでの木造船に変わり、鉄製の船が就航して通年運行が可能となり、これに伴って冬の風物詩だった「氷橋」もなくなりました。昭和47年（1972）石狩河口橋の一部が供用され、翌48年、再び町営となりました。そして河口橋の本格運用による利用者の減少に伴って、昭和53年3月31日、20年以上にわたる石狩川渡船の歴史が閉じられました。

(工藤義衛)



※河口渡船場は、「石狩川渡船場」、「石狩渡船場」「石狩渡船」などさまざまな呼び方がありますが、石狩川の他の途船場にも同じ名前が使われることがあることから、ここでは「石狩川河口渡船場」としました。

河口渡船場のほか、旧石狩市には次のような渡船場がありました。

名称	運行区間	河川名
石狩川河口渡船場	船場町－若生町	石狩川
八線渡船場	生振八線－茨戸	石狩川
花畔北三線渡船場	花畔北三線－生振三線	石狩川
花畔市街地渡船場	花畔市街－生振零線	石狩川
生振基線渡船場	美登位－生振基線	石狩川
茨戸渡船場	生振三線南－茨戸	石狩川
茨戸渡船場	茨戸市街－上花畔	発寒川
小樽内渡船場	銭函－小樽内	小樽内川

(石狩町郷土研究会，1990)

(1) 石狩町郷土研究会（1990）いしかり暦第9号／いしかり渡船場物語。石狩町郷土研究会。